わたしの素晴らしい学生～詹其力

（一）60年を越える教師と生徒の関係

わたしは李一族と深い縁があります。其力君の祖父とはとてもよい友達で、一番上のお姉さんとは同級生、一番上のお兄さんとは花壇小学校で何十年来の同僚、そして本人の其力君は62年前のわたしの教え子です。時間が経つのは速いもので、其力君が一番上のお兄さんに連れられてわたしのクラスに来た日からもう60年以上が経ったことになります。其力君はもともと李家の人間でしたが、おじさんの家（詹家）に養子に入りました。たいへん頭のよい子で一年勉強したあと彰化工業中学の入学試験に合格し、そのあと台北工業専門学校に進学。機械や電子の分野の基礎を学んで優秀な成績を修めました。

劉錦鑄先生夫妻

わたしは教職をとって42年、多くの教え子が社会に旅立ち、さまざまな分野で活躍しています。ある者は医者に、ある者は教師に、ある者はエンジニアに、そしてある者は企業家に。そんな中でも其力君は特別です。彼は自分の事業で成功を収めただけでなく、恩師のことをとても尊敬する生徒だからです。

（二）合璧の経営で成功を収める

統計によると中小企業の寿命は、台湾では13年、中国ではわずか4年だそうです。にもかかわらず、合璧はすでに創立40年を越えています。それだけでなく主要製品はその分野で世界一に輝くなど名実ともに国際企業として成功しています。また、毎年多くの利益も上げています。これは素晴らしい成績の並んだ通知表ともいえるでしょう。

2006年5月初め、其力君はわたしと家内を上海の合璧へ招待してくれました。そこでわたしはすべての従業員が向上心と行動力にあふれている姿を見ました。彼らは効率的に仕事に励んだり、禅の教えを含んだ5Sを実践したりしていました。わたしはとても感動し、それがとても印象に残りました。

（三）感謝報恩、回饋社会（感謝と報恩の念を以って、社会に寄与する）

子供のころの其力君を見て将来は成功すると思いましたか。そう聞かれたらわたしはこう答えます。其力君は苦労に耐えることのできる、地に足の着いた子供でした。彼のようなタイプは大器晩成型かもしれません。今日の其力君があるのは偏に彼の努力と気力の賜物です。それからもうひとつ、とても寛大な心のおかげです。そしてわたしが感動したのは、其力君は会社の発展過程で利益を上げることのほか、「飲水思源（他人から受けた恩を忘れない）」、「感謝報恩、回饋社会（感謝と報恩の念を以って、社会に寄与する）」といった心を持ち合わせていることです。

合璧は毎年利益の5%を社会に、25%を従業員のために還元しています。このような社会を思いやったり、みんなと福を分け合ったりする寛大な心はすべての企業家が持ち合わせているわけではありません。

最後にもうひとつ、其力君はいつも何かの行事があると、李一族を集めて交流の場を作ります。このように一族の情を大切にし、みんなをまとめることはとても称賛すべきことです。そして、その場で自らの経営理念や人生経験をみんなと分かち合います。こうした姿もとても素晴らしいものだと思います。

1950年小学老师 劉錦鑄

偉大な人は自ら行い、我々はそれに次ぐ　トイレ掃除をする董事長を見て

その日の朝すべての幹部が見ました。尊敬する董事長が汗を流しながら懸命にトイレ掃除をする姿を。そして丁寧に会社の文化を伝える姿を。

董事長はトイレを掃除しながら、どうやって掃除するか、どうやってこれを仕事に活かすかを話しました。そして最後に掃除に使った雑巾を濯いで絞ったあと、それがきれいであることを証明するために自分の顔を拭きはじめました。何事も細かなところまで徹底してやる、董事長のこうしたやり方はすべての幹部が見習わなければならないところだと思いました。

トイレ掃除といえば表面の見えるところだけを掃除したり、せいぜい見えにくいところまできれいにすれば十分だと思っている人が多いと思います。しかし、本当に大事なのは全く見えないところ、男子用便器のふたまで洗わなければならないことは知りません。

トイレは毎日使う場所ですが、好きな人はあまりいません。排泄物があって嫌なにおいがするからです。しかし、董事長の話や行動の本当の意味がわかれば、董事長のように丁寧できれいにトイレ掃除ができるはずです。そうなれば、ほかに嫌な場所などあるでしょうか。

わたしはよく幹部を連れて仕入先の検査や関連メーカーの工場見学など、お客様の会社を訪問しますが、そのとき必ずトイレを見るようにいいます。合璧の文化でよその会社を見ると、いろいろな収穫があるからです。

こんな話を聞いたことがあります。ある会社がメーカーから製品を輸入したのですが、品質に問題があったため工場検査を要求しました。担当者がその会社に行き、問題の解決について話しました。話し合いの途中で彼はトイレに立ちました。そしてあることに気付きました。トイレがとてもきれいに掃除されていたのです。彼は自社に戻ったあと、上層部にこう説明しました。「トイレがあんなにきれいに掃除されている会社は管理や文化理念がちゃんとしています。今回は不良品を出しましたが、これは突発的なトラブルだと考えられます。したがって今後も取引を続けるに値すると思います」。

この例からも、どうして董事長はトイレ文化を日常の仕事に関連付けるのか、何事も細かいところまでしっかりやることを要求するのかがわかります。董事長のやり方や考え方を理解するためにこれは大切なことです。わたしはよく工場の幹部にこういいます。「われわれの世代は両親の世代と違って苦労することを知りません。ですから、彼らの苦労もわからなければ、彼らの要求や希望を理解することも容易ではありません」。

董事長は起業して40年、幾度も辛い経験をしたと思います。にもかかわらず、健全な態度でわたしたちを率いています。どうしてこのようなことができるのでしょうか。会社は中国ですでに十数年になりますが、今後ずっと順風満帆な道のりが続くとは思えません。困難にぶつかったとき、どうやってそれを乗り越えるのか。まだまだ頑張らなければなりません。

トイレ掃除は難しいことではありません。言われたことをやるのも難しいことではありません。わたしたちは無から何かを生み出すような創造性あふれる仕事をしなければなりません。それが幹部の仕事です。わたしはそれを仕事の中に根付かせ、会社の理念とし、全従業員に教育していきたいと思います。そうすることでこそ董事長の苦労に報いることができると思います。

合璧集团制造总厂长 陈烟明

上海合璧电子电器有限公司
中国201-805上海市嘉定区安亭镇安陵路318号
TEL:+86-21-5950-5466

成長するための三つの方法　殻を破ったわたし

時の過ぎるのは速いもので、入社したのがついこの間のことのように感じます。当時は右も左もわからなかった若造が、気がつけば三十人あまりの部下を率いて会社の品質を守る品質管理部の責任者になりました。この十年を振り返るといろいろなことがありました。同僚との諍い、責任者としての叱責を受けて流した涙、不良品発生後の対策や頭の痛いクレーム処理、そしてこれらによって眠れない夜。

これらが董事長のいう「壁」なのかもしれません。一年、三年、五年、十年、二十歳、二十五歳、三十歳。それぞれの節目に壁があります。壁にぶつかったときは不安がいっぱいで、世界の終わりが近いているかのような真っ暗な気分になります。わたしもこれまで何度あきらめようと思ったかわかりません。息の詰まりそうな今いる場所から一刻も早く逃げ出したいと思いました。しかし、そんなときひとつの言葉が弱気になったわたしを鼓舞しました。それは「人生は無数の壁にぶつかる。どうやってそれを乗り越えるか、それには方法がある。そして壁を乗り越える過程こそ成長の過程なのだ」という董事長の言葉です。董事長はこうもいいます。「成長するためには三つの方法がある。勉強すること、討論会に参加すること、成功者と人生について語り合うこと」。そこでわたしは勉強することを選びました。

入社して三年ほどが過ぎたころのことです。わたしは一生懸命働き、部門の管理者になっていました。その一方で仕事はきつくなり、中でも日本のお客様からの厳しい要求に対して自分の知識のなさを痛感させられる毎日が続きました。ふと学校を卒業したころのことを思い出しました。三ヶ月にわたってあちこち仕事を探しましたが、わたしは大した学歴もなく、仕事経験もなく、コンピューターも扱えなかったためか、面接を受けた十数軒の会社からはすべて不合格の通知を受け取っていました。途方にくれる中、唯一わたしを採用してくれたのが合璧でした。わたしのキャリアはここで作業員からスタートしました。

勉強しよう。わたしはそう決めて、2003年から昼は仕事、夜と週末は勉強という日々を送りました。時間はいくらあっても足りません。特にそのころは残業が多く、八時、九時まで働くこともよくありました。それでもわずかな時間を見つけては勉強に精を出しました。大変な毎日でしたが、とても充実していました。そして2007年、自習による専門学校卒業証書を取得、さらに2011年には大学の卒業証書も取得しました。この間、わたしはほかにもいくつかの資格と取得しました。品質エンジニア中級の資格、日本語能力試験二級。これらはわたしの仕事に必ず役立つものと思っています。振り返ってみると、ここまでやってこられたのは董事長が「勉強」することを求め、激励してくれたおかげだと思います。これがあったからこそ苦しいときを乗り越えて成長できたのです。董事長、ありがとうございます。

今、遮二無二勉強することは一段落しました。仕事も生活も落ち着いていますが、同時に何か物足りなさを感じています。新しい壁の登場です。今度はどうすればこれを乗り越えられるのでしょうか。答えのわからないとき、董事長が慈済を紹介してくれました。「慈悲济世、楽善好施（慈悲は世の中を救う、善事を好み困った人に施しをする）」。これは慈濟功德会の教えであるとともに董事長の教えでもあります。董事長は常に倹約しながら、自らの給料の3分の2以上を貧しい人の救済に当てています。これは本当の社会還元です。わたしは慈濟功德会に入って五回の活動に参加しました。今は自分の魂の拠り所を見つけた気分です。物質はすべてではありません。自分が捧げたものによって多くの人が幸せになる、こんなに素晴らしいことがあるでしょうか。温かい言葉や微笑みの眼差し。善や愛は伝わるものです。わたしの心は浄化され魂は高いレベルへと上昇しました。

董事長、ありがとうございます。董事長は人生の指示灯、壁にぶつかったとき、進むべき方向を示してくれます。迷いながら苦労の末、わたしは殻を破りました。董事長がいてくれてよかったと心から思います。

上海合璧品管课副理 周楠

感人小故事

一杯の水

数日前、わたしは温かい心に触れ、それによって合璧に対する絆が一層強まりました。

その晩、仕事が終わって寮に戻ると、めまいに襲われ、横になって休みたいと思いました。それを見たルームメイトの葛克琳さんは心配して症状を聞いてくれました。わたしは体の調子もよくないし、のども渇くし、きょうはお風呂に入らずそのまま寝るといいました。ひと通り聞いた彼女はそのあとすぐにわたしのコップを持って部屋を出て行きました。それを見ながら、わたしはただ休んでいました。

しばらくして彼女が息を切らせながら戻ってきました。「5階はお湯がなかったから、1階まで行って来た。飲んで」。わたしはとても感動しました。平凡の中に平凡でない心を感じました。それまで彼女に対して特別な感情を持ったことはありませんでしたが、このとき彼女の中に美しい心を見ました。

わたしの心には、彼女に対する感謝の気持ちと彼女の温かさが残りました。これまでに合璧の温かさについて何度か聞いたことがありましたが、わたし自身がそれを味わったことがなかったので、どうせ適当な宣伝文句か何かだろうと思っていました。でも、今は違います。温かい心がわたしの体の奥深くまで残っています。自らの体験、いくら言葉を並べてもそれに勝るものはありません。

上海合璧 製造課　程文飛

本当のぬくもり

2012年2月6日午後5時。それはわたしにとってとても不幸な出来事が起きた時間でした。と同時にそれによって合璧は家族だということを実感することができた時間でもありました。このときの感じは、故郷を離れてひとり暮らしているわたしにとって、何とも得難いぬくもりにも似たものでした。

その日わたしは煙突に異常が発生したため、その調整作業していました。そして不注意から事故を起こしてしまったのです。赤い血がどくどくと流れ出し、手は真っ赤に染まっていました。少し慌てましたが、それでも何とか水道のあるところへ行って傷口を洗いました。そのとき急に体がふらふらして、そのまま倒れこんでしまいました。寒い。それにすごく疲れた……。

それから数分後、ぼんやりする記憶の中でしきりにわたしを呼ぶ声が聞こえました。そのあと、体が何か温かいものの上に乗せられた感じがして、寒さと疲れがすっと消えていきました。とても温かいものを感じたのです。

そのあと病院で傷の手当をしました。そのとき知ったのですが、しきりにわたしを呼んだのは上司の葛暉さん、そしてわたしを背負ってくれたのは生産技術のエンジニア彭城さんでした。彼らの心遣いに、わたしは心を打たれました。人のことなど知らん顔をする人の多い最近の冷たい社会で本当のぬくもりを感じた気分でした。合璧公司は家族。いつも唱えるスローガンは本当でした。わたしは本当にそれを体験したのです。

上海合璧製造課班長　馬棟棟